

線射放



日本人が国連に対して抱いているイメーシは、水戸黄門の印籠に

近いのではないだろうか。一方、加盟各国に対するイメーシは諸藩といったところか。

伝家の宝刀・印籠を出されると、一も二もなく從順になってしまう。異議を唱えることができない。要するに国連を国家の一つ上の絶対的存在と捉えているのだと思う。

だが、西洋諸国は、自らの政治的主張をいかに国連の活動の中に取り入れさせらるかに血まなごになつてい

せるかに血まなごになつてい。米国にいたっては、常任理事国でありながら、国連運営のための分担金さえ支払いをしがっている。

日本も自らの主張をもっと堂々と行つべきだ。地域紛争が発生し、PK

AMDAが同国のソマ

国家主権

年近く前までは、国連は政府の上の存在ではないかと思つてきた。この誤った考えを断ち切るきっかけになったのは、ジブチ共和国でのソマリア難民支援に際しての出来事であった。

AMDAが同国のソマリア難民キャンプで医療活動を行おうとした時、先にキャンプ入りしていたある大国のボランティア団体が、国連との専属契約を理由にAMDAの活動を拒否してきたので、うまでもない。

国家の主権が国連の権限より上であることを、私たちはジブチ共和国に教えていただいた。難民キャンプでの医療活動に全力を投入したのは、言うまでもない。

はこれを断るぐら

はこれを断るぐら

はこれを断るぐら

針と決断が必要だろ

針と決断が必要だろ

針と決断が必要だろ



実は、私も三

実は、私も三

実は、私も三

(小林 米幸—AMDA・アジア医師連絡協議会日本副代表)